

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

鳥取大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	.....	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	.....	5
《本文》	.....	7
《判定結果一覧表》	.....	15

## 法人の特徴

第2期中期目標における前文は、以下のとおりである。

### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

教育研究の理念として「知と実践の融合」を掲げ、高等教育機関としての大学の役割である、人格形成、知識の伝授、能力開発、知的生産活動、文明・文化の継承と発展などに関する学術を教育・研究するとともに、知力のみならず、これを実践できる能力も養成することを目指して、以下の3つを教育研究の目標とする。

- 1 社会の中核となり得る教養豊かな人材の養成
- 2 地球的、人類的及び社会的課題解決への先端的研究
- 3 地域社会の産業と文化等への寄与

これらの全体目標に沿って、各領域において次のように目標を設定し、学長のリーダーシップの下に、その実現に取り組む。

**教育** 大学の使命と役割はまず教育であり、引き続き教育重視の方針を掲げ、特に、社会が求めている「人間力の豊かな人材の養成」に力を注いで、卒業時には学生に社会に適切に対応できる学士力を獲得させることを目指す。

**研究** 学術研究推進戦略に掲げる「持続性ある生存環境社会の構築」に向けて、基盤的研究を支援するとともに、本学の特色を活かして環境とライフサイエンス等の学際的研究分野の育成を図り、研究拠点形成を推進する。

**社会貢献** 日本だけでなく世界に役立つ研究等の成果を社会に還元するとともに、大学の知的財産を活用した地域産業の育成や地域教育の発展、地域の活性化に貢献し、地域になくしてはならない大学を目指す。

**国際交流** 海外の大学、研究機関等との交流を一層促進し、交流協定の締結及び単位互換制度の導入による学生交流の実質化、共同研究の推進等を目指す。

**医療** 地域の中核医療機関として、社会に貢献し、患者に信頼される安全で質の高い医療を提供するとともに、将来を担う高度な医療人の養成と先進医療の研究開発を推進する。さらに経営をより効率化し、安定的な経営基盤の確立を目指す。

**その他の教育研究活動等** 乾燥地研究センターの充実及び附属学校、学内共同教育研究施設等の組織体制の見直しを通じて、学内外の教育研究等が活発に行われる施設となることを目指す。

**業務運営等** 組織及び業務の見直しを不断に行い、効率的・機動的な大学運営を目指すとともに、全ての教職員の意識改革を図りつつ、大学の個性・特色を明確にして活力ある経営を目指す。また、競争的資金等の自己収入増、経費抑制に努め安定した大学経営を目指す。

### 1. 沿革及び教育組織の構成

本学は、昭和24年に鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学等の旧制諸学校を母体とした新制大学として発足した。昭和40年には工学部が創設された。現在は、鳥取キャンパスに地域、工学及び農学の3学部並びに地域学、工学、農学及び連合農学の4研究科、米子キャンパスに医学部及び医学系研究科を擁する総合大学として、地域から世界に貢献する活動を展開している。また、関連附属施設は、以下のとおりである。

平成27年5月1日において、学生数は6,285名（学部生5,287名、大学院生998名）、

教員数は 865 名（うち教諭 78 名）及び職員数は 1,362 名である。

#### 関連附属施設

- 共同利用・共同研究拠点： 乾燥地研究センター
- 国際乾燥地研究教育機構
- 大学教育支援機構：  
入学センター、教育センター、学生支援センター、教員養成センター、キャリアセンター
- 学内共同教育研究施設：  
総合メディア基盤センター、国際交流センター、生命機能研究支援センター、産学・地域連携推進機構、染色体工学研究センター
- 附属学校部： 附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校
- 保健管理センター
- 附属図書館： 中央図書館（鳥取キャンパス）、医学図書館（米子キャンパス）

## 2. 本学の目指すところ

砂丘農業の改善が世界の乾燥地開発に繋がってきたように、本学は、常に少数者や厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心を持ち、地域に寄り添う姿勢を堅持するとともに、世界を視野に入れた活動を行ってきた。この実学を中心に、地域とともに歩んで世界へ展開してきた伝統を重んじ、知識を深め理論を身に付け、実践を通して地域から国際社会まで広く社会に貢献することにより、知識をさらに智慧に昇華する「知と実践の融合」を本学の基本理念としている。第2期において行った各部局のミッションの再定義をもとに、機能強化を図り、第3期においては、「地域に根ざし、国際的に飛躍する大学」をビジョンとし、重点支援①の枠組みのもとに戦略を構築し推進していく。

## 3. 教育・研究

本学の理念及び教育グランドデザインに基づき、「現代的教養」と「人間力の養成」に力を入れ、人口減少や高齢化、産業空洞化等の課題を抱える地元地域や海外の発展途上地域の課題解決に取り組む、社会貢献や研究にもつながる実践的な教育を進めている。平成26年度には大学機関別認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。

先端的な研究の例として、グローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」、「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」等を進め、事業終了後もそれぞれ乾燥地研究センター、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターにおいて、学内経費によりポストGCOEプロジェクトを実施している。また、染色体工学研究センター、農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター等において、特徴ある研究を推進している。

## 4. 社会との連携・国際交流

産学・地域連携推進機構が中心となって、教員が自治体と連携して進める地域貢献支援事業、自治体との間の包括連携協定、自治体職員の大学への派遣、地元企業200社以上が参加し、本学との間での情報交換や萌芽的研究に対する支援を行う鳥取大学振興協力会の活動等を通し、地元の自治体や企業との密な連携体制を構築している。また、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）により地域を志向した教育・研究を推進するとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（大学COC+事業）により地方創生に向けて活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

国際交流として、スーパーグローバル大学等事業「開発途上国・新興国をフィールドに

した実践教育によるグローバル人材育成」の推進や、世界 111 大学との大学・学部間の学術交流協定を締結し、教職員、学生の派遣や受入を行っている。「メキシコ海外実践教育プログラム」をはじめとする「鳥取大学 Global Gateway プログラム」、「鳥取大学インターナショナル・トレーニング・プログラム (TU-ITP)」及びその他各学部独自のプログラム等を活用し、学生を海外に派遣して教育を行っている。

#### 【個性の伸長に向けた取組】

- 本学の理念である「知と実践の融合」のもと、タフなグローバル人材を育てるため、国内外のフィールドを活用した教育を進めた。メキシコ他本学が強みとする乾燥地を中心とする海外フィールドの活用（計画 1-1-1-4、計画 1-1-1-5）、国内の大学と連携して教育資源の活用（計画 1-2-2-2）、さらに、国際的活動への支援体制の充実（計画 3-3-1-1）等で、実践的な教育を推進した。

（関連する中期計画）計画 1-1-1-4、計画 1-1-1-5、計画 1-2-2-2、  
計画 3-3-1-1

- 全学横断的に本学が強みとする教育研究を学際的に推し進めた。岐阜大学との共同獣医学科の設置、全学が参加する「国際乾燥地研究教育機構」の設置、大学院や学部の改組計画の検討等の体制整備を進めるとともに（計画 1-2-1-4、計画 2-1-1-3）、学術研究戦略に基づき特色ある研究を推進した（計画 2-1-1-3、計画 2-2-1-1）。

（関連する中期計画）計画 1-2-1-4、計画 2-1-1-3、計画 2-2-1-1

- 地域社会や産業界と連携した取組が着実に進み、各種事業の採択にも繋がっている（計画 2-1-2-1）。それらが積極的な地域の課題を解決する活動に発展するとともに特色ある教育の推進に活用されている（計画 3-1-1-1、計画 3-2-2-1）。

（関連する中期計画）計画 2-1-2-1、計画 3-1-1-1、計画 3-2-2-1

#### 【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

該当なし



## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鳥取大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			3	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	おおむね良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	おおむね良好			1	
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			3	
③ 国際化に関する目標	おおむね良好			2	

### ＜主な特記すべき点＞

#### 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 平成 25 年度に岐阜大学との共同獣医学科の設置及び農学部附属共同獣医学教育開発推進センターの設置を行うとともに、遠隔講義、移動型授業等を共同で実施し、獣医学教育における新たな教育方法の開発及び教育内容の改善を図っている。（中期計画 1-2-2-2）
- 平成 26 年度に専任の教職員 6 名を配置した、国際乾燥地研究教育機構を設置し、医・工・人文社会科学分野を含む 80 名以上の教員が参画する 5 つの研究プロジェクトを実施している。また、平成 27 年度に国際乾燥地農業研究センター（レバノン（旧本拠地：シリア））から外国人教員を年俸制で採用し、乾燥地における水の有効利用に関する共同研究を実施している。（中期計画 2-1-1-3）
- 染色体工学研究センターを中心に、産官学連携を推進するため、平成 23 年度に、とっとりバイオフィロンティアを開所し、研究開発、人材育成等に取り組んでいる。農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターでは、平成 24 年度に遺伝資源バンクの開設及び TUFCC（Tottori University Fungal Culture Collection）菌株カタログのオンライン公開を開始し、平成 27 年度には 1,231 株を一般公開している。また、国際乾燥地研究教育機構では、平成 27 年度に特別招へい教授として外国人教員 1 名、クロス・アポイントメント制度により外国人教員 1 名を採用し、体制の充実を図っている。（中期計画 2-2-1-1）

#### 個性の伸長に向けた取組

- 学生や教職員を海外へ派遣して実践的な教育研究活動を行うメキシコ海外実践教育プログラムに取り組み、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 181 名の学生及び教職員を派遣している。また、平成 24 年度に採択されたグローバル人材育成支援事業では、海外教育研究拠点や学術交流協定校等を活用し、派遣学生数は平成 23 年度の 232 名から増加傾向にあり、平成 27 年度は 394 名となっている。（中期計画 1-1-1-4）
- 近隣の地方自治体との意見交換や交流人事、研修で受け入れている職員との協働事業や大学と地方自治体が連携した地域貢献支援事業を行っている。また、実践研究として近隣の地方自治体と連携して持続的過疎社会形成研究プロジェクトを実施し、平成 24 年度の『過疎地域の戦略』の出版等につながっている。（中期計画 3-2-2-1）
- 平成 24 年度に文部科学省のグローバル人材育成支援事業に「開発途上国・新興国をフィールドにした実践教育によるグローバル人材育成」が採択され、専任教員及び特命コーディネーターを配置し、国際交流の支援体制及び機能の充実を図っている。また、Global Gateway プログラムの実施、海外渡航予定の学生には海外安全教育科目を必修化し、『海外安全ハンドブック』を出版するなど、危機管理対応等にも取り組んでいる。（中期計画 3-3-1-1）



## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

##### ○海外での実践的な教育活動の推進

中期目標（小項目）「豊かな教養と人間性、専門性を備えた人間力の優れた人材を養成する。」について、学生や教職員を海外へ派遣して実践的な教育研究活動を行うメキシコ海外実践教育プログラムに取り組み、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に181名の学生及び教職員を派遣している。また、平成24年度に採択されたグローバル人材育成支援事業では、海外教育研究拠点や学術交流協定校等を活用し、派遣学生数は平成23年度の232名から増加傾向にあり、平成27年度は394名となっている。（中期計画1-1-1-4）

##### (特色ある点)

##### ○学生及び教職員の海外派遣事業の実施

中期目標（小項目）「豊かな教養と人間性、専門性を備えた人間力の優れた人材を養成する。」について、日本学術振興会（JSPS）の若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）事業では、国際連合大学を中心とした7機関との共同による国際修士号プログラム「乾燥地における統合的管理に関する共同修士号プログラム（MSプログラム）」を活用し、MSプログラムを共同

実施している海外の関係機関へ大学院生を派遣している。予算措置終了後の平成 25 年度以降は大学独自の予算により鳥取大学インターナショナル・トレーニング・プログラム (TU-ITP) として継続しており、第 2 期中期目標期間に 39 名の学生を派遣している。(中期計画 1-1-1-5)

## (2) 教育の実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (2 項目) のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した 2 項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された 2 計画を含む。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

##### ○岐阜大学との共同獣医学科の設置

中期目標 (小項目) 「学生の学習効果を向上させるため、教育・学習環境を整備・充実する。」について、平成 25 年度に岐阜大学との共同獣医学科の設置及び農学部附属共同獣医学教育開発推進センターの設置を行うとともに、遠隔講義、移動型授業等を共同で実施し、獣医学教育における新たな教育方法の開発及び教育内容の改善を図っている。(中期計画 1-2-2-2)

#### (特色ある点)

##### ○特色ある教育の実施体制の整備

中期目標 (小項目) 「大学における教育の質の保証・向上に資するよう制度・組織を見直し、特に獣医学教育においては、平成 25 年度に岐阜大学との共同獣医学科を設置するなど、整備・充実する。」について、社会情勢及び社会的ニーズを踏まえた特色ある教育を実施するため、平成 25 年度に岐阜大学との共同獣医学科の設置及び平成 26 年度に国際乾燥地研究教育機構の設置を行い、平成 27 年度には工学部を改組している。また、国際乾燥地科学分野における新たな教育研究組織を平成 29 年度に設置するため、平成 27 年度から農学部と地域学部の学部改組及び 3 研究科を統合する大学院改組の検討等に取り組み、平成 29 年度改組に向けた学部及び研究科の再編案の作成につながっている。(中期計画 1-2-1-4)

(3) 学生への支援に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○乾燥地科学分野の学際的研究プロジェクトの推進

中期目標(小項目)「基礎的、萌芽的分野の育成を図りつつ、本学の特色ある分野については、世界最高水準の研究を推進する。」について、乾燥地科学では、文部科学省グローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」の事業期間終了後の平成24年度からも大学の学際的研究プロジェクトとして継続して実施しており、研究成果の発信のため『乾燥地科学シリーズ』(全5巻)の出版等を行っている。また、乾燥地研究センターは共同利用・共同研究拠点として事後評価でA評価となり、次期の共同利用・共同研究拠点として認定されている。

(中期計画2-1-1-2)

○乾燥地科学分野の共同研究の推進

中期目標(小項目)「基礎的、萌芽的分野の育成を図りつつ、本学の特色ある分野については、世界最高水準の研究を推進する。」について、平成26年度に専任の教職員6名を配置した、国際乾燥地研究教育機構を設置し、医・工・人文社会科学分野を含む80名以上の教員が参画する5つの研究プロジェクトを実施している。また、平成27年度に国際乾燥地農業研究センター(レバノン(旧本拠地:シリア))から外国人

教員を年俸制で採用し、乾燥地における水の有効利用に関する共同研究を実施している。(中期計画 2-1-1-3)

## (2) 研究実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

##### ○外国人教員の採用による研究体制の充実

中期目標(小項目)「優秀な研究者を広く国内外に求めることにより、国際的競争力をもった卓越した研究拠点を形成する。」について、染色体工学研究センターを中心に、産官学連携を推進するため、平成23年度に、とっとりバイオフィロンティアを開所し、研究開発、人材育成等に取り組んでいる。農学部附属菌類きこの遺伝資源研究センターでは、平成24年度に遺伝資源バンクの開設及びTUFC(Tottori University Fungal Culture Collection)菌株カタログのオンライン公開を開始し、平成27年度には1,231株を一般公開している。また、国際乾燥地研究教育機構では、平成27年度に特別招へい教授として外国人教員1名、クロス・アポイントメント制度により外国人教員1名を採用し、体制の充実を図っている。

(中期計画 2-2-1-1)

#### (特色ある点)

##### ○テニュアトラック制度の導入

中期目標(小項目)「優秀な研究者を広く国内外に求めることにより、国際的競争力をもった卓越した研究拠点を形成する。」について、平成24年度にテニュアトラック制を導入するとともに、科学技術振興機構(JST)の科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業(機関選抜型)」を活用し、平成27年度までに3名のテニュアトラック教員を採用している。また、若手研究者等については、毎年度130名を超える登用を行っており、特に、平成27年度には若手教員16名を採用し、各学部に重点配置している。(中期計画 2-2-1-2)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○自治体と連携した地域貢献事業の推進

中期目標(小項目)「地域のニーズを的確に把握し、地域の知の拠点として社会貢献機能を強化する。」について、近隣の地方自治体との意見交換や交流人事、研修で受け入れている職員との協働事業や大学と地方自治体が連携した地域貢献支援事業を行っている。また、実践研究として近隣の地方自治体と連携して持続的過疎社会形成研究プロジェクトを実施し、平成24年度の『過疎地域の戦略』の出版等につながっている。(中期計画3-2-2-1)

### (3) 国際化に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

#### ○国際交流の支援体制及び機能の充実

中期目標(小項目)「教育、研究及び社会貢献に係る大学の国際化を強化する。」について、平成24年度に文部科学省のグローバル人材育成支援事業に「開発途上国・新興国をフィールドにした実践教育によるグローバル人材育成」が採択され、専任教員及び特命コーディネーターを配置し、国際交流の支援体制及び機能の充実を図っている。また、Global Gateway プログラムの実施、海外渡航予定の学生には海外安全教育科目を必修化し、『海外安全ハンドブック』を出版するなど、危機管理対応等にも取り組んでいる。(中期計画 3-3-1-1)

##### (特色ある点)

#### ○留学準備語学強化コースの実施

中期目標(小項目)「留学生受入、日本人学生派遣及び教職員の相互交流等、教育研究活動に関連した国際交流活動及び国際協力事業を充実する。」について、語学能力の向上や留学を考えている学生のために、英語(上級、中級、入門)、中国語、スペイン語等の留学準備語学強化コースを実施しており、平成26年度は87名、平成27年度は130名が参加している。(中期計画 3-3-2-2)





《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
<b>(I) 教育に関する目標</b>		おおむね良好	
<b>① 教育内容及び教育の成果等に関する目標</b>		おおむね良好	
豊かな教養と人間性、専門性を備えた人間力の優れた人材を養成する。		おおむね良好	
1-1-1-1	人間性を豊かにする教養教育を充実するとともに、人間力を高めて、幅広い職業人を養成するために、カリキュラムを不断に見直す。	おおむね良好	
1-1-1-2	基礎知識を確実に習得させ、課題発見、問題解決の能力向上のための対策を充実する。	おおむね良好	
1-1-1-3	倫理教育、安全教育、環境問題、知的財産、情報セキュリティに関する教育を充実し、高い責任感を有する職業人を養成する。	おおむね良好	
1-1-1-4	海外での実践教育を推進し、国際的な課題にも対応できる幅広い人材を養成する。	良好	優れた点
1-1-1-5	創造性豊かな優れた研究開発能力を有する高度な専門職業人を養成するため、フィールド教育、海外実践教育、社会の中で学ばせる仕組み等を充実する。	良好	特色ある点
学生の学習意欲や目的意識を高める教育を実施するとともに、社会の要請を踏まえた人材育成に関する教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-2-1	時代に応じた授業科目をカリキュラムに取り入れるなど、学生の学習意欲を高める授業を開講する。	おおむね良好	
1-1-2-2	専門分野での早期体験実習を通じて、各専門分野への関心を高める教育を実施する。	おおむね良好	
1-1-2-3	産業界、地域社会との連携により、問題解決に向けた交流の場を積極的に活用し、実習、インターンシップ、卒業研究等、学生への教育に反映させる。	良好	
本学の教育研究理念に即した「知」のみならず、強い「実践的マインド」を有する学生の受け入れ方策を適切に講じる。		おおむね良好	
1-1-3-1	アドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜を実施するため、一般選抜、推薦、AO入試等の多様な選抜方法の見直しを行う。	おおむね良好	
1-1-3-2	鳥取県内高校生の志願率及び入学率を向上させるため、小・中・高・大学連携を更に推進する。	おおむね良好	
1-1-3-3	オープンキャンパスの内容を更に魅力あるものにするとともに、広報誌やホームページにおいて、学生の受け入れに関する情報を充実させる。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
大学における教育の質の保証・向上に資するよう制度・組織を見直し、特に獣医学教育においては、平成25年度に岐阜大学との共同獣医学科を設置するなど、整備・充実する。		おおむね良好	
1-2-1-1	大学教育支援機構を中心として教育の質を確保し、教育内容等の明確化や厳格な成績評価を学生に周知徹底するため、大学教育支援機構を充実する。	おおむね良好	
1-2-1-2	学士課程教育に関する三つの基本方針（学位授与、教育課程の編成と実施、入学者の受入れ）に沿って、学部・研究科の教育の質の向上を推進する。	おおむね良好	
1-2-1-3	教育センターを中心に、学生による授業評価の結果を授業改善に反映させるための取組を促進するとともに、教員相互の授業評価と学生の意見を取り入れたFDを実施し、教育の質を保証する体制を整備する。	おおむね良好	
○ 1-2-1-4	社会情勢並びに教育研究活動に対する社会的ニーズを踏まえた特色ある教育を実施するため、教育研究組織を再編・整備する。特に、既存の研究科を抜本的に見直し、国際乾燥地科学分野における新たな教育研究組織を平成29年度を目途に設置するための体制整備や制度設計を行う。	良好	特色ある点
学生の学習効果を向上させるため、教育・学習環境を整備・充実する。		おおむね良好	
1-2-2-1	附属図書館、総合メディア基盤センター等を活用して、教育に必要な設備、図書館資料、情報ネットワーク等の整備を推進し、教育・学習環境を充実する。	おおむね良好	
○ 1-2-2-2	国内の国公立大学との連携を促進し、各大学の教育研究資源を有効に活用する。特に、平成25年度に岐阜大学との共同獣医学科を設置し、獣医学教育を推進する。	良好	優れた点
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
大学生生活における総合的な学生支援を行うため、学生に対する経済的支援、相談体制等を充実する。		おおむね良好	
1-3-1-1	教職員が連携し、学生に対する学習・生活・就職等のきめ細かな相談・指導が実施できるよう、ハラスメント防止を含めた体制を強化する。	おおむね良好	
1-3-1-2	学部生や大学院生に対する奨学金制度等による経済的支援を充実する。	おおむね良好	
1-3-1-3	課外活動支援制度及び学生相談員制度などを充実する。	おおむね良好	
1-3-1-4	保健管理センターを中心に、健康教育及び健康相談を充実させ、きめ細かい健康管理の活動を支援する。	おおむね良好	
体系的なキャリア教育を充実するとともに、就職支援を強化する。		おおむね良好	
1-3-2-1	キャリア支援組織体制を強化し、社会人、職業人として自立できる能力を養成するキャリア教育を充実する。	おおむね良好	
1-3-2-2	学生への就職支援情報の提供機能を強化するとともに、就職ガイダンス等を充実する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>		おおむね良好	
<b>① 研究水準及び研究の成果等に関する目標</b>		おおむね良好	
基礎的、萌芽的分野の育成を図りつつ、本学の特色ある分野については、世界最高水準の研究を推進する。		良好	
○	2-1-1-1 本学の特性を生かした多様な学術研究機能を充実できるよう、教員の自由な発想に基づく基礎的、萌芽的研究を推進するための研究環境を整備する。	おおむね良好	
	2-1-1-2 選択と集中により乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学、人獣共通感染症等の環境及びライフサイエンスに特化した学際的研究プロジェクトを育成する。	良好	優れた点
	2-1-1-3 乾燥地科学分野において、乾燥地や開発途上国等に関する研究及び社会貢献を推進する体制を整備し、乾燥地における環境修復、農村開発や砂丘地保全・活用等の研究プロジェクト及び世界的な研究機関（国際乾燥地農業研究センター（ICARDA）等）と共同研究を実施する。	良好	優れた点
地域社会や産業界の課題解決に向けた研究を推進するとともに、その研究成果を広く社会へ還元することにより、持続性のある生存環境社会の構築に寄与する。		おおむね良好	
	2-1-2-1 地域社会や産業界等が抱える諸課題の解決に向けて、自治体、学外の関係諸機関等との共同研究を積極的に実施するとともに、自治体、経済団体等からの要請にも積極的に対応する。	良好	
	2-1-2-2 シーズ発表会、学会活動及びホームページの活用等、各種広報手段を通じて、研究成果を広く社会へ還元する。	おおむね良好	
<b>② 研究実施体制等に関する目標</b>		おおむね良好	
優秀な研究者を広く国内外に求めることにより、国際的競争力をもった卓越した研究拠点を形成する。		良好	
○	2-2-1-1 学術研究推進戦略に基づき選択と集中により本学の特性を活かした環境とライフサイエンス等の学際的研究分野を重点的に推進する研究拠点を形成するとともに、乾燥地科学分野に関する研究を推進する。 特に、平成27年1月に設置した国際乾燥地研究教育機構を中心に、乾燥地や開発途上国等に関する自然・人文・社会科学系の研究・教育を推進するため、海外の乾燥地研究における世界トップレベルの研究機関等（国際乾燥地農業研究センター（ICARDA）等）より優秀な外国人研究者を採用し、全学的に研究・教育を展開する体制を整備する。	良好	優れた点
	2-2-1-2 優秀な人材を確保するため国際公募を導入するとともに、ポストドク等の若手研究者を積極的に登用する。	良好	特色ある点
	2-2-1-3 グローバルCOEプログラム等大型の研究プロジェクト組織を充実させ、研究拠点活動を強化する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	最高水準の研究を推進できる環境を整備・充実する。	おおむね良好	
2-2-2-1	設備マスタープランに基づく全国および全学共同利用の研究設備の優先的導入、支援スタッフの充実など研究支援体制を充実する。	良好	
2-2-2-2	研究の進展と社会の要請に応じ、研究組織の見直し等を行うとともに、国内外の研究機関との連携を強化する。	おおむね良好	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>		おおむね良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		おおむね良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		おおむね良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム・教育組織の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	おおむね良好	
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
国、地方自治体、民間団体、さらに他の高等教育機関等との連携を強化し、産官学連携機能を強化する。		おおむね良好	
3-2-1-1	産学・地域連携推進機構を窓口として、全学的な産官学連携推進体制を強化する。	おおむね良好	
3-2-1-2	産学・地域連携推進機構を中心に、本学の教育研究の成果を積極的に広報活動を行うとともに、民間企業との共同研究の推進や大学発ベンチャーの育成支援を実施する。	おおむね良好	
3-2-1-3	研究を通じて創出された知的財産を効果的に技術移転する活動を展開する。	おおむね良好	
地域のニーズを的確に把握し、地域の知の拠点として社会貢献機能を強化する。		おおむね良好	
3-2-2-1	少子・高齢化や過疎化等、地域社会の諸課題の解決に資するため、本学の知を結集し、地域の活性化を推進する活動を積極的に実施する。	良好	優れた点
3-2-2-2	地域社会や住民のニーズに応えたリカレント教育、生涯学習、公開講座、出前講座及び各種研修会等を企画し、実施する。	おおむね良好	
地域の人材育成を推進するとともに、地域教育や地域文化の振興に貢献する。		おおむね良好	
3-2-3-1	社会人の大学院入学を促進するとともに、次世代の子どもたちをはじめ地域住民に対し質の高いものづくり等、科学技術の知識と技能を提供する。	おおむね良好	
3-2-3-2	鳥取県並びに市町村教育委員会と連携し地域教育の充実を支援するとともに、地域学部附属芸術文化センターを中心に地域の芸術文化の振興に貢献する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 国際化に関する目標		おおむね良好	
教育、研究及び社会貢献に係る大学の国際化を強化する。		おおむね良好	
3-3-1-1	海外拠点、国際戦略本部等の組織・機能を充実し、国際的な教育・研究活動への支援と危機管理能力を強化するとともに、大学情報の多言語化を推進する。	良好	優れた点
3-3-1-2	外国人教員による語学教育、英語による授業科目、教職員を対象とした英語、中国語、韓国語、スペイン語の研修を充実・強化する。	おおむね良好	
3-3-1-3	地域の行政機関、教育機関等との連携を一層強化し、地域社会の特徴を活かした国際交流活動を実施する。	おおむね良好	
留学生受入、日本人学生派遣及び教職員の相互交流等、教育研究活動に関連した国際交流活動及び国際協力事業を充実する。		おおむね良好	
3-3-2-1	留学生30万人計画に沿った留学生の受入れを拡大するため、修学及び生活支援等の留学生を支援する体制の一元化等、留学生受入のための環境を整備・充実する。	おおむね良好	
3-3-2-2	日本人学生及び教職員の派遣を拡大するため、語学力の強化プログラムや留学ガイダンス等の充実、及び国際共同研究情報の広報活動を強化する。	おおむね良好	特色ある点
3-3-2-3	学術交流協定校等との連携を一層強化し、短期留学プログラムを構築するとともに、ダブルディグリー、文化体験プログラム等、本学の特徴を活かした交流プログラムを充実・拡大する。	おおむね良好	
3-3-2-4	持続性ある地球環境を維持保全するため、主として開発途上国の人材育成や各種技術協力を、(独)国際協力機構(JICA)等の国際支援機関と連携し推進する。	おおむね良好	



## 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>国内の国公立大学との連携を促進し、獣医学教育の充実・強化を図ることを目指した計画を進めている。平成25年度に岐阜大学との共同獣医学科の設置及び農学部附属共同獣医学教育開発推進センターの設置を行うとともに、遠隔講義、移動型授業等を共同で実施し、獣医学教育における新たな教育方法の開発及び教育内容の改善を図っている。</p>
(2)	<p>乾燥地科学分野での業績を踏まえ設置する「国際乾燥地研究教育機構」において、環境修復、農村開発や砂丘地保全・活用等の研究プロジェクト及び国内外の研究機関との共同研究等を実施するとともに、海外の研究機関等より優秀な外国人研究者を採用し、研究・教育・社会貢献を推進する計画を進めている。平成26年度に専任の教職員6名を配置した、国際乾燥地研究教育機構を設置し、医・工・人文社会科学分野を含む80名以上の教員が参画する5つの研究プロジェクトを実施している。また、平成27年度に国際乾燥地農業研究センター（レバノン（旧本拠地：シリア））から外国人教員を年俸制で採用し、乾燥地における水の有効利用に関する共同研究を実施している。</p>